

# 三中だより

令和2年度 7月号



令和2年7月6日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 3)  
校長 小柴 憲一

## 始業式からの軌跡

6月1日(月)の始業式から、感染リスクを抑えながら、段階的に生徒たちの自己管理能力を高め教育活動を拡大していくことに取り組んでまいりました。その軌跡を振り返ります。

日	月	火	水	木	金	土
5/31	6/1 学年ごとの 始業式	2 学級ごとの 入学式	3 給食なし 分散登校開始 午前Aグループ 午後Bグループ	4 給食なし 午前Bグループ 午後Aグループ	5 給食なし 午前Aグループ 午後Bグループ	6
7	8 Aグループ 簡易給食 清掃なし 3年 Zoom 試行	9 Bグループ 3年 Zoom 試行	10 Aグループ 1年 Zoom 試行	11 Bグループ 1年 Zoom 試行	12 Aグループ 2年 Zoom 試行	13 Bグループ 2年 Zoom 試行
14	15 全員登校開始 簡易給食継続 清掃・部活なし	16	17	18	19	20
21	22 給食2食器制導入 普通教室清掃開始 部活開始※1	23	24	25	26	27
28	29 給食2食器制継続 特別教室清掃開始 1年生体験部開始	30 三中でらこや開始※2	7/1 給食食器制限なし 部活開始※3	7/2	7/3	7/4

※1:ミーティングもしくは30分から1時間程度の練習。また放課後の専門委員会等や短時間の係活動なども開始された。

※2:前年度行っていたような夜の時間帯ではなく、放課後30分程度の実施。

※3:他校との交流は禁止。

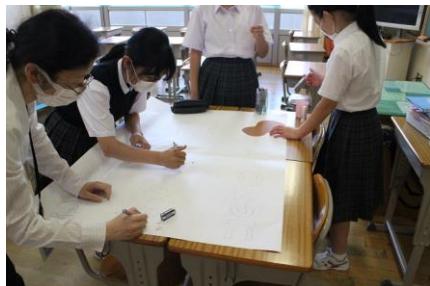
ご覧のように、分散登校⇒簡易給食開始⇒全員登校開始⇒給食2食器制導入・普通教室清掃開始・短時間の部活動開始⇒特別教室の清掃開始⇒三中でらこや開始⇒給食の食器制限なし・部活動ガイドラインに則った活動開始と段階的に進めてまいりました。

校舎内では、生徒たちの元気な声が聞こえるようになり活気が出てきましたが、依然として、教員は給食の配膳には細心の注意を払い、生徒に前を向いて食べさせたり、「密」になった場面で

の行動様式を生徒に実践させたり、清掃当番や係活動を行った生徒や部員は、こまめな校舎内や用具の消毒を行ったりなど、感染リスクの低減に努めております。

これらの対応は、縮小されたり簡略化されたりすることはあっても、「もうしなくていい」という通知等が発出されるまで継続することになります。しかし、現段階で、それを通知できる、あるいは通知の目途を立てられる行政機関・医療関係者はいないのではないかと思います。つまり、「昨年度までの通常」に、いつ戻るかについては全く分からないということになります。ですから、「新しい生活様式」「新たな日常」という用語を使うことにより、「これからは今が通常になるんだ」ということを国民に啓発しているのだと思います。

#### <放課後の部活動・係活動等の様子、3つの食器を使った給食>



#### <放課後 清掃活動後の三中てらこや>



1年生は初めてなので、始まる前に開校式を行い、概要などを説明しました。

### 3年生「特別の教科 道徳」【生命の尊さ】【家族愛】

先日、3年生の道徳科で、厚生労働省・公益社団法人「日本臓器移植ネットワーク」のリーフレット「みなさんへの大切なお知らせです」を配布し、①脳死とはどういう状態か、②臓器の移植に関する法律では臓器移植をどのように定義づけているか、③そして臓器の摘出の要件はどうなっているかについて学習したあと、まず以下の設問1について「Yes・No」とその理由について考え、小グループや学級内で議論しました。そして、その後、設問2を提示し同じように議論しました。

「①脳死とはどういう状態か、②臓器の移植に関する法律では臓器移植をどのように定義づけているか、③そして臓器の摘出の要件はどうなっているか」などの基礎知識について学習

設問1 あなたは、もし脳死状態になったら、あなたの臓器は他の誰かに提供してもいいと考えますか？

「Yes・No」の集計。そう考えた理由などについて、グループや学級内で議論

設問2 それでは、もしあなたの家族が脳死状態となり、その方がすでに臓器提供の意思を表示している方で、医師から家族として臓器提供の同意を求められた場合、あなたは、それに同意し人工呼吸器を外してもらいますか？

「Yes・No」の集計。そう考えた理由などについて、グループや学級内で議論

「設問1」では、自分の体をどうするかという視点で議論がなされているようで、「自分の脳死」に対して家族がどう思うかという側面を考える意見は、私が見ていた限りではありませんでした。しかし、「設問2」で、「家族の脳死」について考えざるを得ない状況になり、ジレンマや葛藤が生じた生徒が出てきました。

「設問1」では「Yes」なのに、「設問2」では「No」（自分はいいいけど家族はダメ）。

矛盾しているようですが、「命は尊いものであり、臓器移植をすることにより救われる命があるのなら…」という【生命の尊さ】という内容項目※4で考えることもできますが、一方で、「私が同意したら、人工呼吸器を外されて本当に死んでしまうのなら、私は同意できない」という【家族愛】という内容項目で考えることもあり、二項対立している状況が生徒の考えを揺さぶり、深く悩ませている場面も多々ありました。

道徳科の評価は数値による評価は行いません。主に以下の2点について一人一人の内面の変化をみていきますが、我々教員の研究会でも、「大変難しい」と言われています。

- ① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
- ② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

以下は、ある生徒のグループ内での発言の概要です。

もし親が臓器移植したいと言っていたなら、同意してあげることが親のためだってのは分かるよ。でも、人工呼吸器をつけていれば、しゃべれないけど、心臓は動いているんでしょ。それって生きてるってことじゃない。いくら回復しないって言われても、「はい人工呼吸器を外してください」って言える？臓器を提供する意思を表示するまでだったら、僕だってできるし誰でもできるけど、いざ、脳死になったとき、家族が同意するって怖くない？

知識・技能の定着はもちろん重要ですが、このように考え込んだり伝えたりする力が、知識・技能を「どのように使うか」につながるんだなと感じた一瞬でした。

※4 学習指導要領で定められている、扱う項目のことで、【節度・節制】などの簡潔な言葉でまとめられており、全部で、22項目あります。



## 2年生 おもしろ探求 –「フクシのコト」–

2年生は、今年度の弁論大会で、「福祉」をテーマに各生徒が自分の考えを主張します。

ただし、福祉とは、一つの職業を意味するものではなく、概念も広いので、まずは、具体的にどのようなことが福祉なのか、そして身近にある福祉にはどのようなものがあるかなどについて、「おもしろ探求」として3名の講師の方に来ていただき学習しました。

講師：社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター 人材対策推進室  
統括主任 永田 史恵 様 主事 琴寄 円佳 様 主事 森 直美 様

最初に、福祉の仕事に対してどのような印象をもっているかなどを把握するための、事前のアンケートをしました。生徒にとっては、福祉の仕事は、「人や社会の役に立てる」については肯定的ですが、「給料が高い、休みやすい」については否定的な印象をもっていたようです。

さて、授業は福祉の対象として「高齢者」「障がい者」「子ども」「生活困窮者」を例としてあげ、それぞれについてどのような課題があり、その課題を解決するために、世の中はどのようなことに取り組んでいるのか、また、私たちは、日常生活でどのようなことができるのかについて、プレゼン資料で分かりやすく解説していただきました。

2年生は、来年になると社会科の公民的分野で、「社会保障」「財政及び租税の役割」「国や地方公共団体が果たす役割」などを学習し、より一層「社会を構成する一員」としての自覚を強めます。

その前年度の学習として、2年生には「福祉」を通して社会を見つめてほしいと思います。例えば、荒川区の令和2年度予算のうち一般会計の目的別内訳を見ると57.1%が民生費に充てられており、荒川区が福祉にどれだけ力を入れているかが分かります。それでは、近隣の区ではどうなのか。荒川区だけの特徴なのか。だとすればなぜなのか。

今の2年生が、今後の学習で、そのような自分の住む街に視点を当てて、福祉について考えてもらえると、説得力があり力強い弁論になるとともに、社会自立に向けた大きな一歩にもなると思います。



## 3年生を中心とする特別な対外試合実施について(部活動)

今年度、東京都中学校総合体育大会が中止になり、3年生にとっては、春季・夏季ともに大会に出場ができなくなりました。そのような折、6月12日付で東京都中学校体育連盟会長から、「教育委員会と校長会が協議して、支部レベルで3年生中心の試合を開催してもよい」との通知がありました。ただし、感染症拡大防止対策を講じるのはもちろんのこと、保護者の同意を得ることを前提とする旨の記載もありました。

その後、荒川区教育委員会と荒川区中学校長会で協議し、東京都中学校体育連盟会長からの通知を踏まえたうえで、7月18日から8月23日までの間で実施することといたしました。また、原則1試合から2試合とし、荒川区内で実施することといたしました。また、区内の部数や競技種目の特性により特例もございまして、実施できない部もあるかと思っております。詳しくは、各部の顧問へ区内専門委員から連絡があり、各部員に説明があると思っております。

なお、荒川区独自の特別な対外試合ですので、ブロック・東京都・関東などへ続く試合ではありません。